

平成21年産の農作物の生育状況について(地方農政局、道庁等からの聞き取り情報)

平成21年8月27日現在

品目	全国の生育状況 生育ステージ	
コメ	分けつ期～収穫期 (北海道:開花期～穂揃期)	8月以降天候が回復したことから、全国的に生育は回復傾向。 登熟が例年よりも遅れ、ほ場によって登熟の進捗もバラつくことが予想されるため、籾の黄化や葉色状態等を踏まえて収穫適期を判断するなどの技術指導をさらに推進。 なお、低温による不稔籾の発生が心配された北海道においては、籾の稔実歩合(平年値85～95%)は、地域・品種によってばらつきがあるものの、低い場合でも7割程度、高い場合では9割程度確保されており、平成5年のような大幅な減収は回避できる見通し。
麦	北海道 秋まき小麦:収穫済み 春まき小麦:収穫済み 都府県:収穫済み	北海道(全国の作付け面積の約4割)においては、収穫終了。 長雨や倒伏により、品質低下や減収の見込み。
大豆	北海道:開花期～成熟期 都府県:発芽期～開花期	北海道では、8月以降天候が回復したことから、生育の遅れを徐々に取り戻しつつあるが、着莢数が少なく、減収のおそれ。8月16日以降も曇天低温と好天が短期間で繰り返しており、生育の回復が鈍化。 長雨や豪雨により播種作業が遅れていた九州地方北部、中国四国地方、東海地方等でも播種が完了。ただし、播種時期が遅れたほ場では収量低下が懸念。
小豆・菜豆	開花期～成熟期	既に開花が終了した菜豆については、生育の遅れにより着莢数が少なく、減収の見込み。 小豆(開花中)については、8月以降天候が回復したことから、生育の遅れを徐々に取り戻しつつあるが、8月16日以降、曇天低温と好天が短期間で繰り返しており、回復が鈍化。一部地域では茎葉黄化、病害発生が見られるため、病害虫の発生動向に注意した適切な防除を指導。
てん菜 (北海道)	登熟期	生育の進捗はおおむね平年並みであるが、排水不良ほ場では生育遅延、茎葉の黄化が散見され、一部に褐斑病や根腐れ病の発生が見られる。
ばれいしょ	北海道:肥大期～収穫期 都府県:概ね収穫済み	北海道以外の産地では、概ね収穫済み。 北海道(生食用で約5割)では、長雨によって収穫作業が遅れていたが、生食用ばれいしょの収穫・出荷が進行中。また、加工用・でん粉用ばれいしょも9月中旬以降から収穫が開始される見通し。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.3倍まで低下し、落ち着きを取り戻しつつある。
野菜		
根菜類(だいこん、にんじん)	は種、生育期、収穫期	主産地である北海道で、一部にとう立ち等の品質低下の発生が見られるものの、好天により生育は回復傾向。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.1～1.5倍であるが、徐々に落ち着きを取り戻しつつある。
たまねぎ	北海道:肥大期～収穫期 都府県:貯蔵もの出荷	主産地の北海道で、一部で病害の発生が見られるものの、最近の好天により収穫作業が進展。今後、出荷が本格化。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.6～1.7倍であるが、徐々に落ち着きを取り戻しつつある。
果菜類(ピーマン、トマト、なす)	定植期、生育期、収穫期	主産地の東北で、日照不足や長雨の影響により、一部で病害の発生や果実の肥大、着色の遅れが見られる。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.0～1.5倍。
葉菜類(はくさい、キャベツ、レタス)	定植期、生育期、収穫期	はくさい、キャベツについては主産地である長野、群馬等の高冷地で7月中旬までの好天により、生育は順調だが7月下旬以降の降雨により、一部で病害が発生し、小玉傾向。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.2～1.5倍。 レタスについては、7月下旬以降の長雨により、一部で病害が発生し小玉・軟弱傾向。 東京都中央卸売市場の価格は平年比1.7～1.9倍。
果樹		
うんしゅうみかん	果実肥大期	生育は平年並み～やや早い。6月にかけては小雨のため小玉傾向の産地もあったが、現在はその後の降雨により平年並みの肥大。
りんご	果実肥大期～収穫始期	生育は、平年並み～やや早い。
ぶどう	果実肥大期～収穫期	生育は、早めに推移している。 市場価格(京浜市場)は前年に比べ、やや低い。
なし	果実肥大期～収穫期	生育は、早めに推移している。 出荷の前進化と集中等により、市場価格(京浜市場)は前年に比べ、13%程度低くなっている。